

## 編集後記

「平和を考える小中学生作文集第三十六集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から三十九点、中学生から七十二点、計百十一点の作品が寄せられました。寄せられた作品には、それぞれが考える平和について、小中学生ならではの視点で丁寧つづに綴られていました。

令和七年は、戦後八十年という大きな節目の年でした。戦後八十年となり、戦争を経験された方が少なくなってきた現在の現在、戦争を経験された方の話を聞き、そこから平和について考えたり、平和の尊さを伝えたりすることには、大きな意味があると思います。ある作品では、これまでに戦争について多くを語らなかつた方々が体験を語ることで、風化させずに後世に伝えようとしていました。それを正面から受け止め、平和の大切さについて改めて考え、自分たちがこれからは生きる人々に伝えようとする気持ちが記されていました。

世界では、未だ多くの戦争が続いている状態です。作文を寄せてくださったみなさんは、ウクライナやガザ地区での目を覆いたくなるような惨状をニュース等で目の当たりにして、戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和な世界を築くために自分たちにできることは何かを深く考えていました。読み手の私たちにも、「平和とは何か」について深く問いかけていました。

かつて、私達の住む沼津市でも戦争があり、多くの市民が犠牲になったといわれています。そして、昭和六十二年、沼津市は「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。「世界の恒久平和を築くことは人類共通の願いである」「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬく」。私達は、これからもその努力を続けていく必要があります。

未来に同じ失敗を繰り返さないためにも、これからの時代を担う小中学生が、平和について自分なりに考え、話し合うことや知り得たことを発信していくことは、大事なことです。また、本年度の作品にもありましたが、「平和な世界」を作るためには、大きな何かをしなくてはならないのではなく、一人一人が平和について考え、日常の生活の中でできることに取り組んでいくことが大切になると思います。この作文集を通して、沼津市の小中学生の皆さんが、世界の人々と本当の平和とは何か、共によく話し合い、未来へと一歩ずつ進んでいくことを願っています。

最後に、この作文集を読んでくださった皆様方に心から感謝申し上げます。